

海上保安能力強化の取組状況

海上保安庁
令和6年12月20日

最近の我が国周辺海域の状況

我が国周辺海域を取り巻く情勢

日本海周辺

- 外国漁船による違法操業
- 北朝鮮による弾道ミサイル発射
- 木造船等の漂流・漂着
- 不審船・工作船の出没
- 北朝鮮公船の確認



ロシア・北方領土周辺海域

- 外国漁船による違法操業
- 外国海洋調査船による海洋調査
- 日本漁船の被だ補（ロシア警備船による銃撃）



韓国・竹島周辺

- 外国漁船による違法操業
- 日本漁船の被だ補
- 韓国海洋警察庁所属船との対峙
- 外国海洋調査船による海洋調査



本州東方海域

- 多数の外国漁船の活動



尖閣諸島周辺

- 中国海警船による領海侵入等
- 中国海警船による日本漁船に近づこうとする事案
- 中国海警船の大型化・武装化
- 小型無人機（ドローン）らしき物体の飛行
- 外国漁船による領海侵入・違法操業
- 外国海洋調査船による海洋調査
- 中国・台湾活動家等による領有権主張活動



大規模災害

- 給水支援
- 孤立者救助
- 臨海部火災



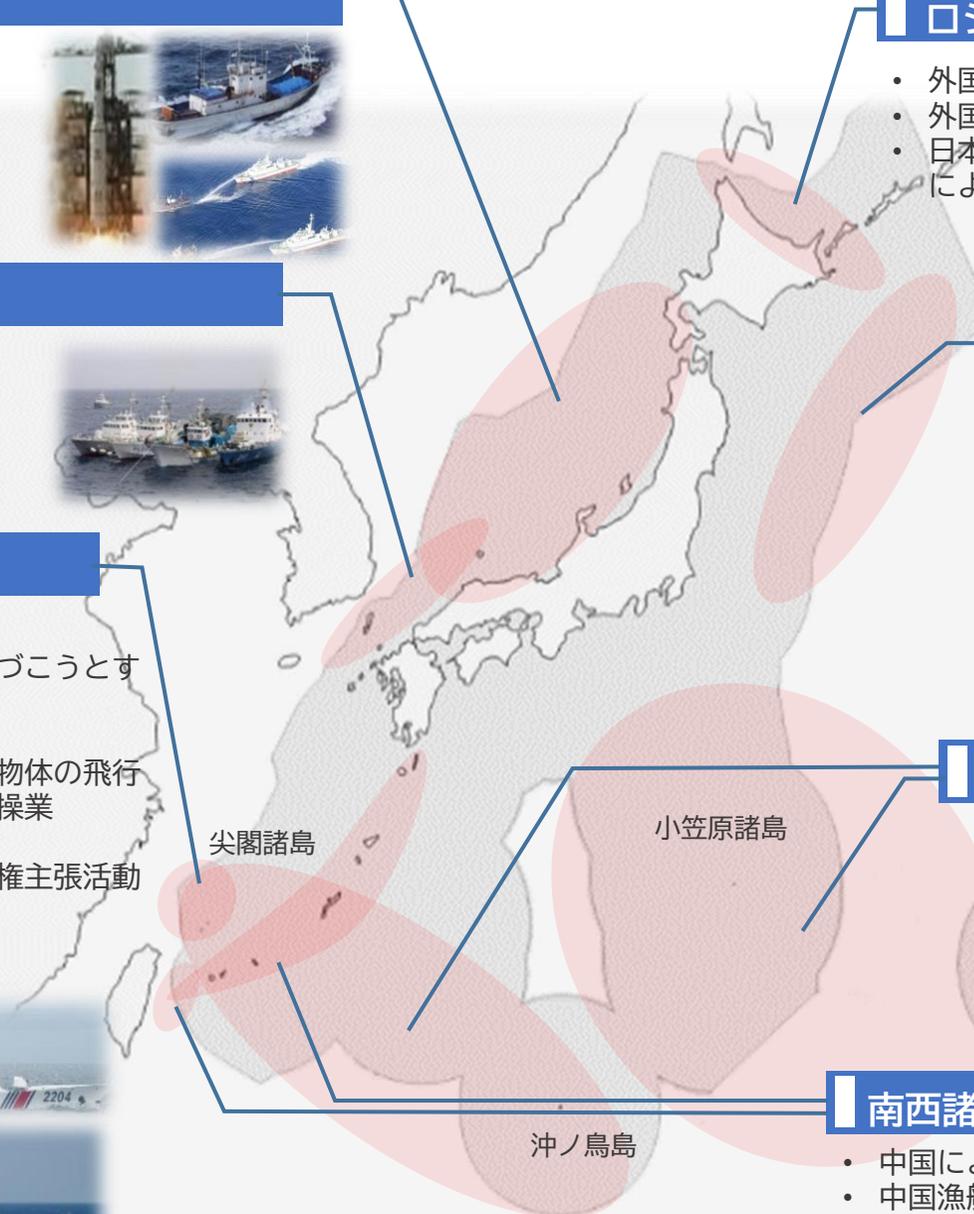
離島・遠方海域

- 外国漁船による違法操業
- 離島への不法上陸
- 大量の薬物密輸
- 外国海洋調査船による海洋調査



南西諸島周辺

- 中国による弾道ミサイル発射
- 中国漁船の太平洋進出
- 中国漁船の大型化



尖閣諸島

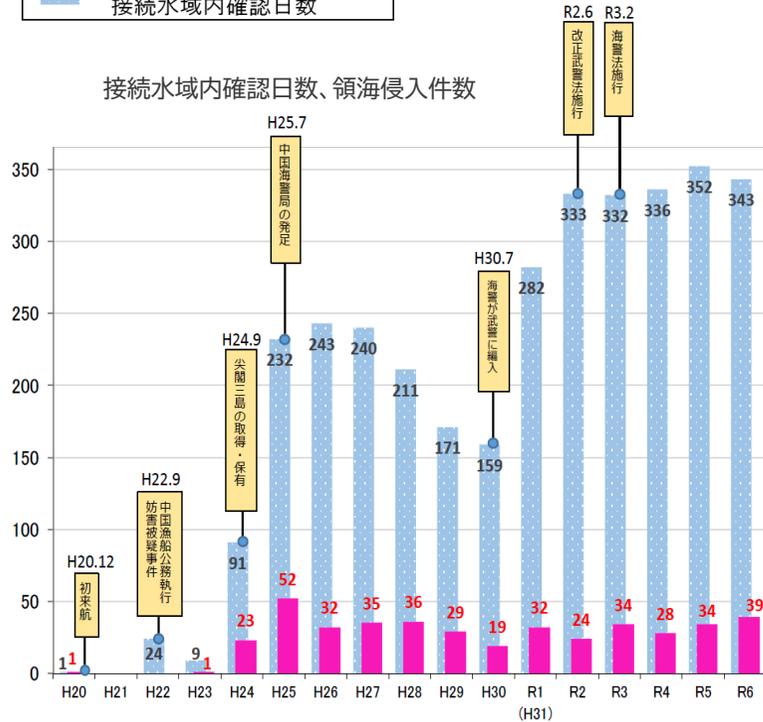
小笠原諸島

南鳥島

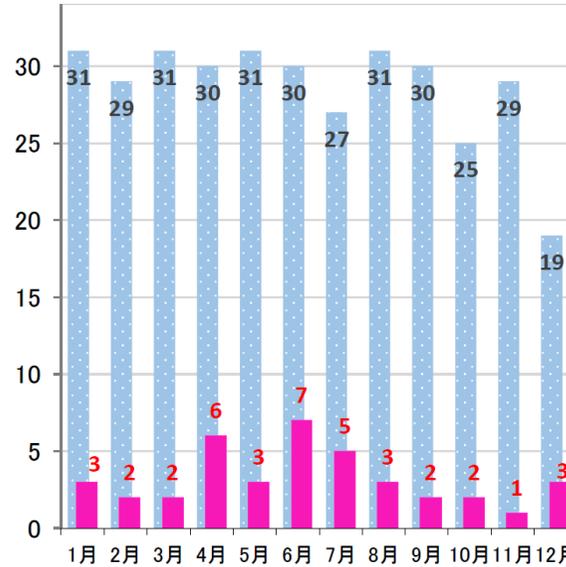
沖ノ鳥島

◎尖閣諸島周辺海域における中国海警局に所属する船舶(中国海警船)等の動向【令和6年12月19日時点】

■ 領海侵入件数
■ 接続水域内確認日数



直近12カ月間の 接続水域内確認日数、領海侵入件数



- ▶ 平成28年9月以降、**中国海警船4隻**による領海侵入が多く確認されるようになっている。
- ▶ 近年、領海内における中国海警船による日本漁船へ近づこうとする事案が多発。
- ▶ 領海侵入時間(最長)
: **80時間36分**(令和5年3月~4月)
※2番目に長い領海侵入時間は、72時間45分(令和4年12月)
- ▶ 接続水域内における年間確認日数(最多)
: **352日**(令和5年)
※2番目に多い年間確認日数は、336日(令和4年)
- ▶ 接続水域内における連続確認日数(最長)
: **215日**(令和5年12月22日~令和6年7月23日)
※2番目に長い連続確認日数は、157日(令和3年2月13日~7月19日)

◎砲のようなものを搭載した中国海警船の常態化

- ▶ 令和6年6月7日、**いずれも砲のようなものを搭載した中国海警船4隻**が領海に侵入。
(砲のようなものを搭載した中国海警船が複数隻同時に領海侵入するケースは初めて)
- ▶ 同日以降、接続水域内で活動する中国海警船は、いずれも砲のようなものを搭載。



砲のようなものを搭載した中国海警船の一例

◎領海内における中国海警船による日本漁船に近づこうとした事案【令和6年12月19日時点】

平成31年/令和元年~令和6年までの発生件数	
平成31年/令和元年	1件
令和2年	8件
令和3年	18件
令和4年	11件
令和5年	17件
令和6年	18件

海上保安能力強化の進捗状況

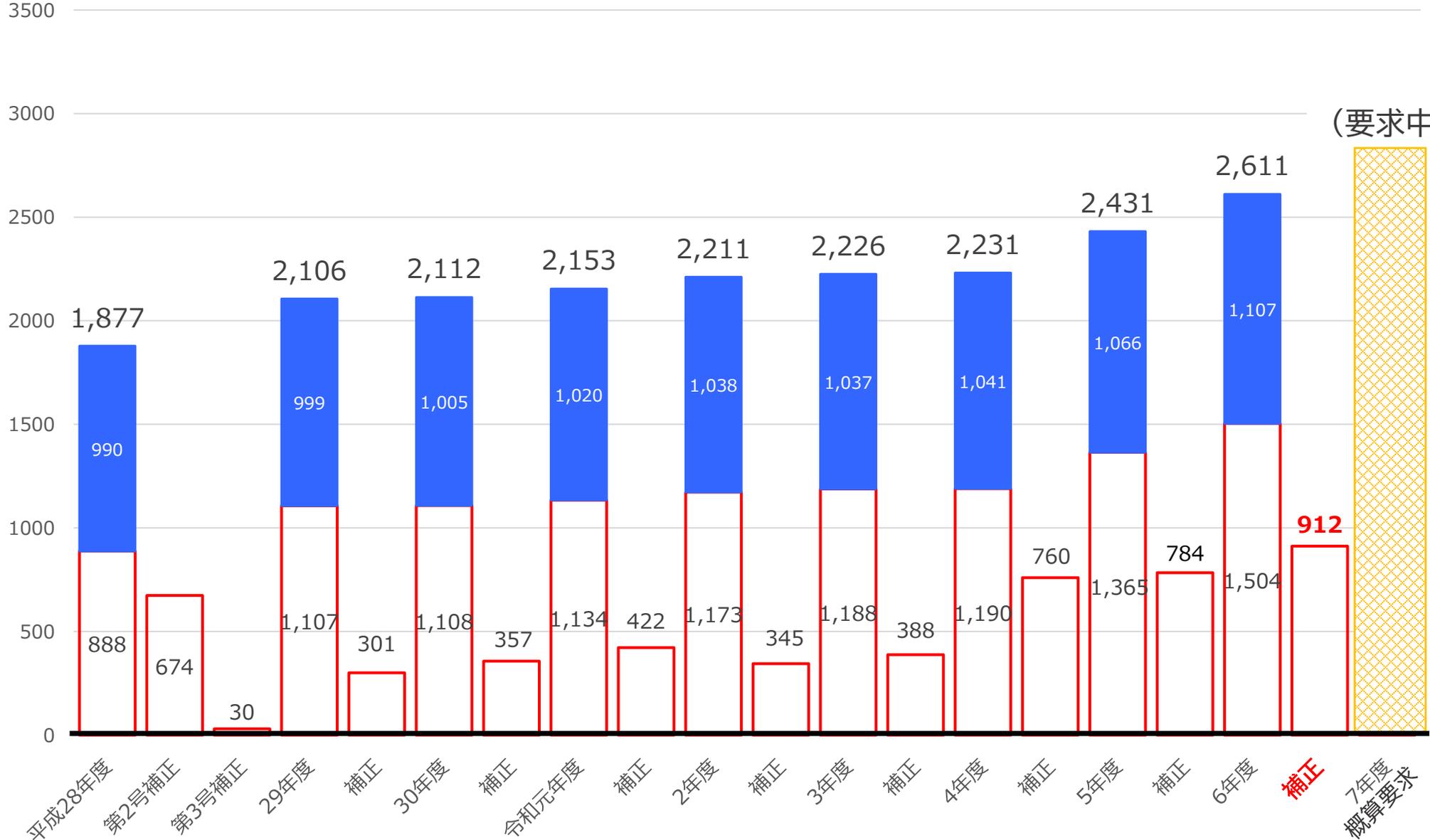
海上保安庁の予算の推移

※ デジタル庁一括計上経費を含む
 ※ 補正は人件費含まず
 ※ 端数処理の関係で合計額は必ずしも一致しない

(億円)

□ : 物件費 ■ : 人件費

(要求中)



※写真・図はイメージ

巡視船艇・航空機等の増強・活用



6 補正

大型巡視船（3,500トン型）1隻



6 補正

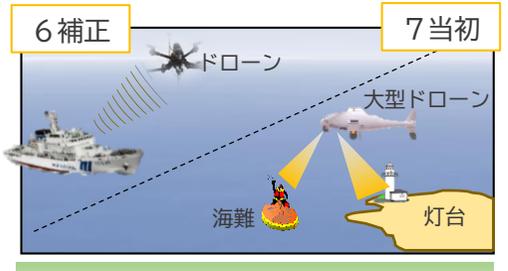
無操縦者航空機 3機
※リース機を購入



7 当初

多目的巡視船1隻

新技術の活用



6 補正

7 当初

ドローン対策資器材
大型ドローン導入にかかる機種調査

国内外関係機関との連携



7 当初

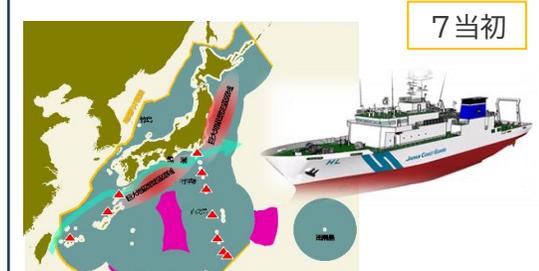
国際機関と連携した能力向上支援



6 補正

自衛隊との秘匿通信の強化

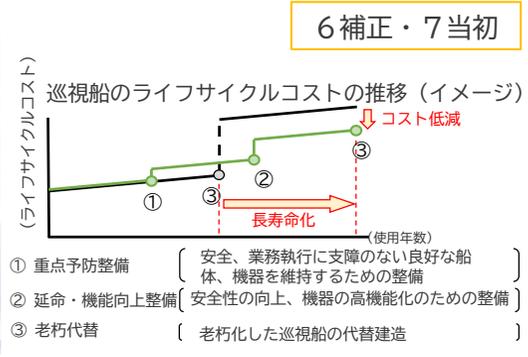
海洋権益の確保



7 当初

測量船の高機能代替

業務基盤の取組み



PLH・CLなど代替整備/巡視船の長寿命化

6 補正・7 当初

- 宿舎の整備
- 船員対象 3着へ
- 制服の購入
- ICT教育
- 女性設備の整備
- デジタル化

人的基盤の強化等

羽田空港航空機事故等を受けた安全対策



7 当初

シミュレーターを使用した緊急操作訓練等

無操縦者航空機運用概要

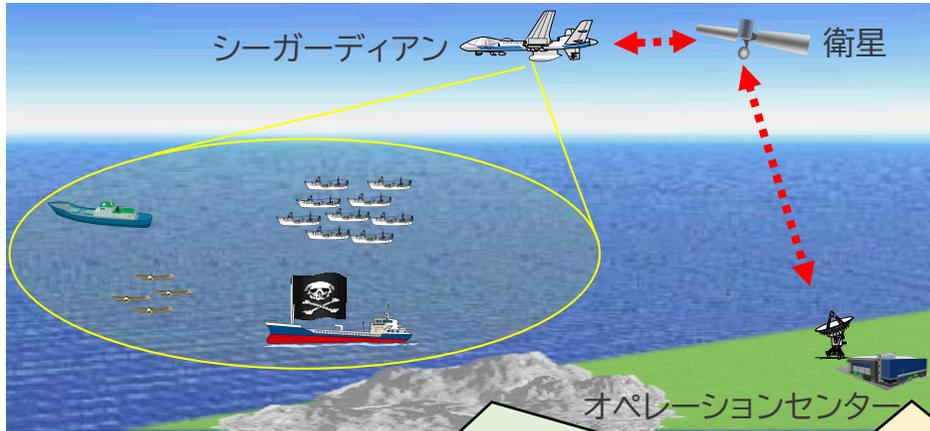
【運用開始】 令和4年10月19日（令和4年度は1機、令和5・6年度は3機、令和7年度以降5機体制）

【運用拠点】 海上自衛隊 八戸飛行場

【導入機体】 米国ジェネラル・アトミクス社製「シーガーディアン」 ※機体等はリース、操縦・整備要員はアウトソーシング

【飛行内容】 我が国周辺海域の監視警戒業務・事案対応(海難・災害対応)等

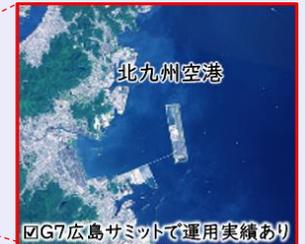
- 令和5年度補正予算:新造2機購入
- 令和6年度補正予算:リース3機購入予定



令和5年5月～ 3機運用開始 ⇒ 令和7年度以降5機体制

運用拠点

- 現在の我が国周辺海域を巡る情勢等を踏まえ、地域特性や業務ニーズ等を総合的に勘案した結果、北九州空港に運用拠点を移転することを決定
- 令和7年度以降、北九州空港を無操縦者航空機の運用拠点とし、新たに増強する2機を加えた5機体制により、更なる海洋監視体制の強化



基本コンセプト

実施業務

- 大規模災害(物資輸送、被災者支援等)
- 有事における国民保護活動(住民避難等)
- その他、警備実施や領海警備等

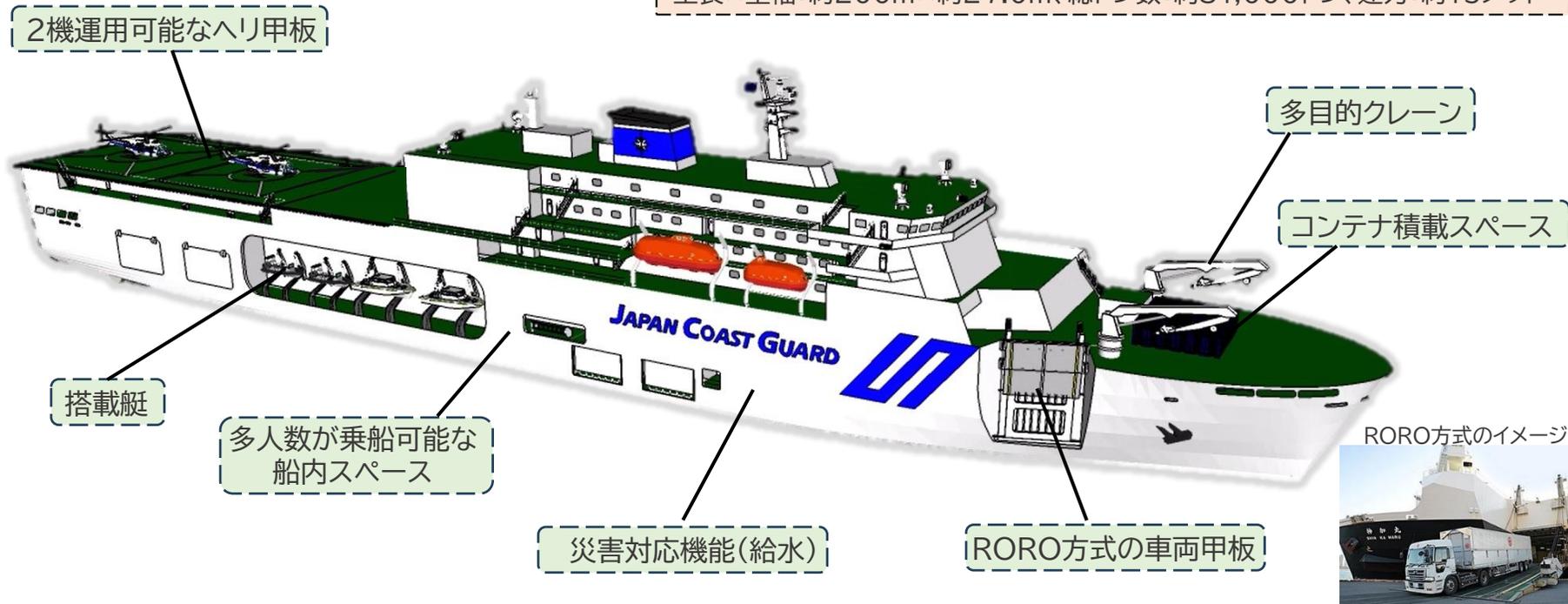
主な能力

- 人員物資の収容/輸送能力
- ヘリ複数機運用能力
- 高度な指揮機能/情報通信機能 等

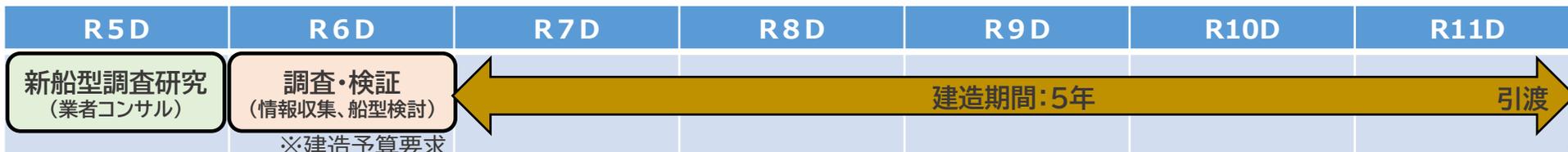
主要目・機能等

主要目

全長×型幅:約200m×約27.0m、総トン数:約31,000トン、速力:約15ノット



スケジュール



◆ 海上保安庁では、平素から**警察、自衛隊等と合同訓練**を実施している。

警察との連携訓練

警察と管区海上保安本部の間において、各種事案対処に係る**連携・対応能力強化**に係る訓練を実施

G7大阪・堺貿易大臣会合に向けた訓練



テロ対処訓練



自衛隊との連携訓練

防衛省・自衛隊と本庁、各管区海上保安本部、現場の各レベルにおいて、**日常的に情報共有**を行い、平素から搜索救助や海賊対処の共同運用を実施

搜索救助



海上自衛隊艦艇による沈没船内搜索への協力

海賊対処



護衛艦に同乗している海上保安官

共同対処能力の維持向上を図ることを目的とした不審船に係る**共同対処訓練**のほか、総合的な対処・連携強化を目的とした**合同訓練**を実施

不審船共同対処



不審船共同対処訓練(28回実施)

総合的な対処・連携強化のための合同訓練



令和5年10月合同訓練

また、令和6年10月には、統制要領に係る訓練としては3回目の**共同訓練**(机上訓練)を実施

海上保安庁と外国関係機関との連携強化

「自由で開かれたインド太平洋（FOIP：Free and Open Indo-Pacific）」の実現に向け、東南アジア、インド洋、太平洋地域での各種取組を推進

- 海における法の支配といった基本的価値の共有
- 航行の自由及び海上安全を確保するため、シーレーン沿岸国の海上保安機関の能力強化

日米



日米海上保安機関間の付属文書署名

(2020年5月)

『海上安全、保安及び環境保護』

- ・ 日米間の共同取組を「サファイア」※と命名
- ・ 合同オペレーション・訓練に係る手続を明示
- ・ 職員交流の拡大、学際交流の促進及び日米合同での第三国に対する能力向上支援の実施

※SAPPHIRE

(Solid Alliance for Peace and Prosperity with Humanity and Integrity on the Rule-of-law based Engagement)

「法の支配の取組における誠実と仁愛に基づいた平和と繁栄のための強固な連携」



付属文書署名式
(2020年5月)



通信・救助訓練
(2024年5月)

日米比



日比米首脳による共同ビジョンステートメント

(2024年4月 日米比首脳会合)

『平和と安全のための連携』

- ・ 日米CGによる比CGへの能力向上支援
- ・ 米巡視船への日比CG職員の同乗
- ・ 日米比CG間合同訓練の実施 等



比に対する制圧訓練
(2024年5月)



米巡視船への日比CG職員の同乗
(2024年7月)

日米韓



キャンプデービットの精神

(2023年8月 日米韓首脳会合)

『インド太平洋の協力拡大』

- ・ 日米韓の間において意向確認書 (Letter of Intent) の署名
- ・ 東南アジア及び太平洋島嶼国に対する能力構築に係る3か国海洋枠組の立ち上げ。
- ・ 2024年11月の日米韓首脳会合において、新たな3か国の海洋安全保障及び法執行協力枠組みを発表。※意向確認書に基づく更なる協力関係を進めていくこと。



日米韓合同訓練
(2024年6月)



第三国能力向上支援
(2024年11月)

日米豪印



2024年9月日米豪印首脳会合（米国・ウィルミントン）の成果概要

- ・ 「海洋状況把握のためのインド太平洋パートナーシップ（IPMDA）」の発展的継続。
- ・ 「シップオブザーバー・ミッション」の立上げ
- ・ 「インド太平洋海洋トレーニング・イニシアティブ（MAITRI）」の立上げ



日米豪印首脳会合
(2024年9月)



MDAスクール
(2023年12月)

参考資料

海上保安能力強化に関する方針 主な取組内容

- 平成28年に決定された「海上保安体制強化に関する方針」に基づき、令和4年までに大型巡視船17隻、航空機24機（無操縦者航空機1機、練習機6機を含む。）、大型測量船2隻、大型練習船1隻などの整備に着手
- 令和4年12月に決定された「海上保安能力強化に関する方針」に基づき、海上保安業務の遂行に必要な**6つの能力**（海上保安能力）を一層強化

▽強化すべき6つの能力

※着手済み及び令和6年度までに整備に着手するもの

① 新たな脅威に備えた高次的な尖閣領海警備能力

- ・ 中国海警船の増強、大型化・武装化への対応
- ・ 警察、防衛省・自衛隊等との連携強化等による効果的・効率的で持続性の高い対処力構築

- ヘリコプター搭載型巡視船 1隻
- 大型巡視船 6隻
- 巡視船搭載ヘリコプター 2機



② 新技術等を活用した隙の無い広域海洋監視能力

- ・ 無操縦者航空機と飛行機・ヘリコプターを効率的に活用した監視体制構築
- ・ 衛星、AI等の新技術活用 等

- 無操縦者航空機 5機
- 中型ヘリコプター 5機
- 中型ジェット機 2機



③ 大規模・重大事案同時発生に対応できる強靱な事案対処能力

- ・ テロ脅威、多数外国漁船、大規模災害等への対処
- ・ 大規模・重大事案同時発生に対応体制構築

- 大型巡視船 1隻



④ 戦略的な国内外の関係機関との連携・支援能力

- ・ 警察、防衛省・自衛隊等との連携強化（統制要領策定・共同訓練を含む。）
- ・ 外国海上保安機関等との連携・諸外国への能力向上支援 等

- 国際業務対応・練習船 1隻
- 自衛隊との秘密通信の強化
- 国民保護活動のための調査研究・資器材整備



⑤ 海洋権益確保に資する優位性を持った海洋調査能力

- ・ 測量船、測量機器等の整備・高機能化
- ・ 取得データの管理・分析、対外発信力の強化 等

- 測量機器等の整備、高機能化
- 調査データの解析



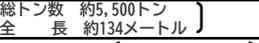
⑥ 強固な業務基盤能力

- ・ 人材確保・育成、定員の増員、教育施設拡充
- ・ サイバーセキュリティ上の脅威に対応した情報通信システムの強靱化
- ・ 基地整備、運航費確保、老朽代替 等

- 定員の増員、教育訓練施設の拡充
- 老朽化対策
- サイバー対策



海上保安能力強化に関する方針に基づく大型巡視船等の増強整備

凡例		新規	継続	就役済	整備 隻数	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	
【多目的巡視船】 総トン数 約31,000トン ヘリコプター3機搭載可能 全長 約200メートル				→																
【ヘリコプター搭載型巡視船】 総トン数 約6,500トン ヘリコプター1機搭載 全長 約150メートル				3隻	「れいめい」(鹿児島) → 「あかつき」(鹿児島) → 「あさづき」(石垣) →															
【ヘリコプター搭載型巡視船】 総トン数 約6,000トン ヘリコプター2機搭載 全長 約140メートル				4隻	「しゅんこう」(鹿児島) → 「あさなぎ」(鹿児島) → 「ゆみはり」(鹿児島) → 「かんぱい」 →															
【大型巡視船】 総トン数 約3,500トン 全長 約120メートル				9隻	「みやこ」(宮古島) → 「おおすみ」(鹿児島) → 「やえやま」(石垣) → 「あまみ」 → 「ごとう」 →															
【大型巡視船】 一例 総トン数 約1,500トン 全長 約96メートル				10隻	「つるが」(敦賀) → 「えちげん」(敦賀) → 「わかさ」(舞鶴) → 「ほてるま」(石垣) → 「いろが」 →															
【大型測量船】 総トン数 約4,000トン 全長 約100メートル				2隻	「平洋」(本庁) → 「光洋」(本庁) →															
【大型練習船】 総トン数 約5,500トン 全長 約134メートル				1隻	「いつくしま」(呉) →															
【国際業務対応・練習船】 総トン数 約6,000トン 全長 約134メートル				1隻	→															
合計隻数と就役予定年度				31隻	—	—	—	4隻	4隻	1隻	1隻	5隻	3隻	2隻	4隻	5隻	1隻	1隻		
保有隻数の推移※			51	54	62	62	62	62	62	66	69	70	71	75	78	80	84	89	90	91
		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	
	大型巡視船 (練習船含む)	51	54	62				66	69	70	71	75	78	80	84	89	90	91		
大型測量船			2						3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	

※保有隻数の推移には、「海上保安能力強化に関する方針」に基づく整備以外の増減を含む

海上保安能力強化に関する方針に基づく航空機の増強整備

凡例	整備機数	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
 新規 → 継続 → 就役済													
【大型ジェット機】 	1機									羽田基地			
【中型ジェット機】 (一例) 	5機			北九州基地	北九州基地	北九州基地							2機
【中型飛行機】 (測量機) 	1機				仙台基地								
【中型ヘリコプター】 (航空基地) 	8機				新潟基地	函館基地							2機
【中型ヘリコプター】 (PLH搭載) 	11機			3機					2機				2機
【練習機】 	6機	6機											
合計機数と就役予定年度	32機	—	6機	—	4機	2機	3機	1機	5機	2機	3機	4機	2機
【無操縦者航空機】 	5機	—	—	—	—	—	—	1機	2機	リース→購入	2機		

保有機数の推移※	保有機数												
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	飛行機	26	31	31	33	34	35	36	34	35	35	35	37
	回転翼	48	52	49	52	53	55	55	60	61	64	68	68
	合計	74	83	80	85	87	90	91	94	96	99	103	105
無操縦者航空機	—	—	—	—	—	—	1	3	5				

※保有機数の推移には、「海上保安能力強化に関する方針」に基づく整備以外の増減を含む